

活動名	子ども地域包括ケアプロジェクト「まちのおうち」		団体名称	さきちゃんち運営委員会
			活動テーマ	子どもの健全な育成を支援する活動
			活動目的	④子どもの居場所づくり
■活動結果（概要）		■実施スケジュール結果		■各スケジュールごとの活動内容
<p>■ 学生や大人が多世代で様々な立場から関わるにより、多様な子どものあそび、まなぶ、つくる、たべる、くつろぐ場をつくりだせた。</p> <p>■ みんなで料理や何かをつくったり、食事をしたりすることで生まれる温かい関係の中で、子どもたちが過ごすことができた。</p> <p>■ 文京こどもを支える会議では地域で活動している人同士の新たなつながりができ、課題も共有できた。さらに、つながりを活かし、学びあい、地域ぐるみの支援を広げていきたい。</p>		<p>2017.9～【随時】協力者募集</p> <p>2017.11-2018.8 子どもや親を中心とした対象者向けイベントや場づくり</p> <p>2018.2-2018.7 文京こどもを支える会議</p>		<p>・町会・民生委員・大学生などへ呼びかけ（挨拶、連絡）</p> <p>・子ども支援についての座談会・ワークショップ（上映会後の座談会、文京こどもを支える会議及び打ち合わせ）</p> <p>・外国人や障がいのある子の親がどうWSや対応スタッフ配置</p> <p>・放課後や年末年始の居場所（孤食回避、学びの場）を提供</p> <p>・水引制作、恵方巻き等、季節の行事で多世代交流の場を提供</p> <p>・味噌や梅干しをみんなで作ったり、一緒に食べたりする機会の提供</p>
■活動目標		<p>・どんな子どもでも来やすい「第二のおうち」のような居心地のよい場を増やす</p> <p>・継続的にかかわる地域の大人（支援者）を増やし、輪を広げていく</p> <p>→地域ぐるみで子どもたちを支える取り組みを通じ、コミュニティのつながりの再構築を試みる。</p>		
■長期成果		<p>地域ぐるみの子ども支援体制、子どもを見守る地域ネットワークを構築することにより、子ども自身が生きやすさを感じられるまちづくり。地域の大人も、「よその子」ではなく、「わがまちの子」という意識を持ち、大人同士の連携も高まることが期待される。</p>		
活 動 風 景				
 <p><第3回文京こどもを支える会議 >7/1 区内の子ども支援者の活動内容紹介と拠点の可視化</p>		 <p><まちの映画館@さきちゃんち> 8/25 映画「トントンゴキゴキ工場の時間」鑑賞後のWS</p>		 <p><紙芝居ワークショップ>8/31 昔ながらの紙芝居を鑑賞後に紙芝居づくり</p>
■得られた成果と今後の課題		■受益者や地域社会の変化		■得られたノウハウの共有・発信
<p>(得られた成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな子どもや親子、支援者を対象としたイベントを通して、子どもの居場所づくりや支援に継続的に関わる地域の大人が増えた。 ・家庭的な雰囲気であったり、作業を一緒にしたり、休日にスタッフと遊んだりすることなどにより、子どもたちもリラックスして「さきちゃんち」に訪れるようになった。 ・支援者同士が繋がり、共通認識を持つことにより、地域ぐるみの子どもを支えるネットワークや連携が生まれた。 <p>(今後の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場を継続的に開いても外国人や障がいのある子の親の参加が伸びなかった。ニーズの再検討や対象者に直接情報が届くように周知の工夫や他機関の協力が必要であることがわかった。 ・今後は同じ取り組みを始めた団体などの情報収集や連携につとめ、対象者がいた場合に、すぐにつなげることができるようになりたい。 ・サイトやSNSやMLなどネット上で利用者に情報発信してきたが、小学生への周知や発信はまだ弱いと感じている。小学生向けのチラシ配布やポスター掲示などを検討していきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所づくりという活動に、子育て世代やその上の世代だけでなく、大学生や20代の社会人なども関わってくれようになり、より多世代、多様な層で子どもを支えることができるようになった。 ・年末年始や日曜日など児童館が閉館の日に、子どもが大人に見守られながら過ごせる場が増えた。 ・必要に応じて、公的機関や他活動団体、学校などつながり、情報を共有、支援につなげることができるネットワークができた。 <p>（前年の同じ期間と比較して）</p> <ul style="list-style-type: none"> →ボランティア保険の登録者が30名から54名と1.8倍 →事業開催報告回数が283から338と約2割増 →休日に子どもがさきちゃんちを利用できる日が約2倍 →子どもの利用者が2038名から2225名と約1割増 →官民さまざまな支援者が「さきちゃんち」で直接話し合い、つながることができた。要望に応える形で3回開催。文京こどもを支える会議参加者44名（延べ66名） 		<ul style="list-style-type: none"> ・今回つながった支援者を中心にネット上でグループをつくり、会議の内容や課題と感じていることに関する情報をお互いタイムリーに共有できるようになった。 ・さらにつながり機会と学びや対話を深めるために、2019年より毎月のプログラムを開催予定。文京区における子どもの現状を知り、支援の未来をつくりだすという流れで1年間体系的に学びあう。（文京こどもを支えるプロジェクト）その概要はネット上でも発信し、広く地域の方と必要な情報を共有していきたい。 ・子どもの人権についての啓発も、方法などを工夫して地道に行っていきたい。 ・家族も含め、支援者を支援する方法についてもノウハウを共有し、支援しやすい状況をつくってきたい。 ・子どもや親など、当事者の意見なども取り入れ共有し、今後の活動に役立てていきたい。 ・引き続き、地域の大人が「わがまちの子」という意識で子どもたちを見守り、子どもが生きやすさを感じるまちづくりを目指し、そのきっかけづくりや発信する力を高めていきたい。
〒 112-0002 （住所）東京都文京区小石川3-36-14 2階 （団体名）さきちゃんち運営委員会 （ホームページ）：http://sakichanchi.org/				<p>助成金額 346,000円</p> <p>助成期間 H29.9.1～H30.8.31</p>

※長期成果とは、活動目標に向かって継続的な事業を進める中で将来得られる活動成果とします。